

(道徳)

「主体的に学ぶ子どもを育てる」  
～道徳の時間の学習を通して～

大阪市立友渕小学校 中村幸広 立花あずさ

## 1. 研究主題設定の理由

本校では、平成25年度から3年間は国語科の研究に取り組み、自己を表現する学習、児童が主体的に学習に取り組む手立てとなる授業についての研究を行った。どの教科にもつながる言語活動を充実させるという課題について研究を進めた。

平成28年度は、それまでの国語科の研究から、今後の学習指導要領改訂を見越した研究を進める中で、「道徳の時間」の授業の研究を進めることとした。

主体的で深い学び、他者との交流の中での自己の確かな学びが、次の学習指導要領の一つの中心的な学習となる。児童の主体性を今まで以上により重視した学習を進めていくため、道徳の時間の学習指導過程、道徳の時間に生かす指導方法の工夫の2点に特に絞り道徳教育の研究を進めていくことにした。

## 2. 研究の趣旨

本校における平成27年度末の児童アンケートから、新学習指導要領を視野に入れた授業を構築するにあたっては、さまざまな言語活動を学習活動に取り入れ、主体的に学ぶ子どもを育てる授業を目指すことが必要であると考えた。そこで、平成28、29年度の2年間は、「主体的に学ぶ子どもを育てる～道徳の時間の学習を通して～」という主題を設定し、30年度より特別な教科となる道徳の授業に焦点をあて、児童が互いの意見を交流しあう言語活動や表現活動を通して、児童自らが考え、主体的に学ぶことができる子どもを育てたいと思い、研究・実践に取り組むこととした。

## 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究視点を以下のように設定した。

### 視点① 道徳の時間の学習過程

- 導入 展開 終末をふまえた授業を構成する。
- ねらいと中心発問をとらえる。

### 視点② 考えることが楽しくなるような道徳の時間

- 研究のポイント
  - ・主人公はだれか
  - ・道徳的論点（内容項目）は何か
  - ・山場（場面・ことば・行動）はどこか
  - ・助言者・援助者（きっかけ）は何か、誰か
  - ・発問（内面的資質を育てるために）
- 導入
  - ・実物を見せる

- ・写真や絵を見せる
- ・役割演技をする
- ・連想ゲームをする
- ・価値そのものについて聞く

#### ○ 展開

- ・教材のタイプの違いをふまえ、ねらいに即して主発問から中心発問にせまる

例：主人公が変容 ⇒ 主人公の転機や行為のもとになるに考えに着目

主人公が成長・変容していない ⇒ 主人公以外の人物の視点

主人公が失敗 ⇒ 失敗の理由

- ・国語科との違いを意識する

教材文は指導者が読む（国語力の差がでないようにする）

発問の工夫をする

行動の理由をたずねる

ものに添えられた心をたずねる

#### ○ 終末

- ・自他の良さを紹介する
- ・感動的な物語や人物の逸話、教師の体験談を聞く
- ・授業を通して気づきや考えたことを書く  
⇒教材の特性を活かした工夫
- ・その授業のまとめではなく、余韻を残したり学習を振り返ったりできるようにする  
⇒価値の深化・一般化

### 視点③ 道徳の時間に生かす指導方法

- 資料提示の工夫 → 学習に対する関心の高まりを深める、活発な意見交流が行える
- 話し合いの工夫 → 自分の考えを広げたり新しい気づきを生んだりする
- 表現活動の工夫 → 主人公の気持ちを考えやすくする  
場面の状況をとらえやすくする
- 板書の工夫 → 場面ごとの板書や、オリジナルの板書でわかりやすくする
- 説話の工夫 → 終末に教材と関係のある詩を読み、学習の余韻を残す

## 4. 研究の成果と今後の課題

### （1）研究の成果

- 学習過程の基本的な「型」をふまえた授業づくりに取り組むことができた。
- 短時間での教材研究が可能になり、教材分析の方法を学ぶことができた。
- 指導方法の多様な「ひきだし」を得ることができ、教材に最も適したものを使い分けることができた。

### （2）今後の課題

- ワークシートや道徳ノートの活用方法を検討し、評価について方向付けをしていく必要がある。
- 教科書になることによって、児童があらかじめ内容を知ることができる。ストーリーを知っているだけでは気づかない視点からの発問を工夫する必要がある。